

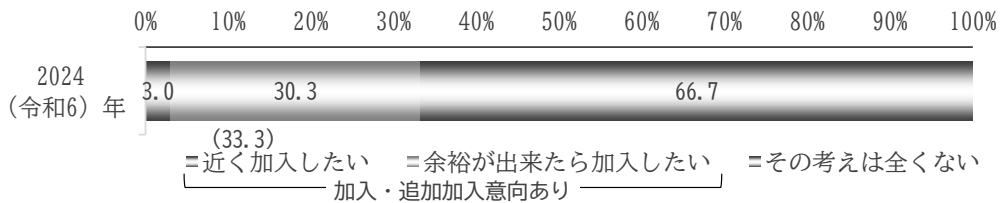
3

生命保険（個人年金保険を含む）の 今後の加入に対する意向

（1）加入・追加加入意向の有無

今後、生命保険（個人年金保険を含む）の加入・追加加入意向があるかどうかを尋ねたところ、『加入・追加加入意向あり』（「近く加入したい」と「余裕が出来たら加入したい」の合計）が33.3%となっている。（図表Ⅱ-87）

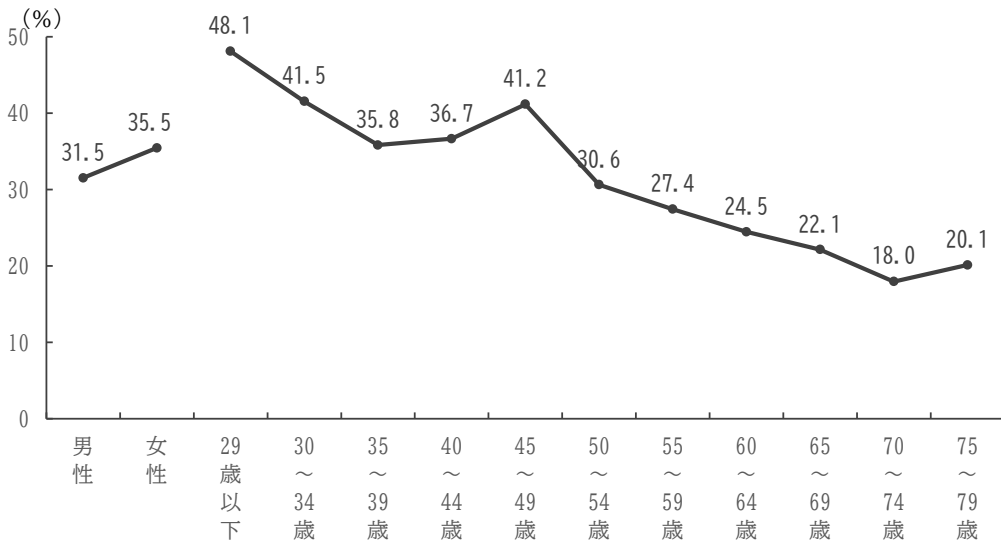
〈図表Ⅱ-87〉加入・追加加入意向の有無



性別にみても、大きな差異はみられない。

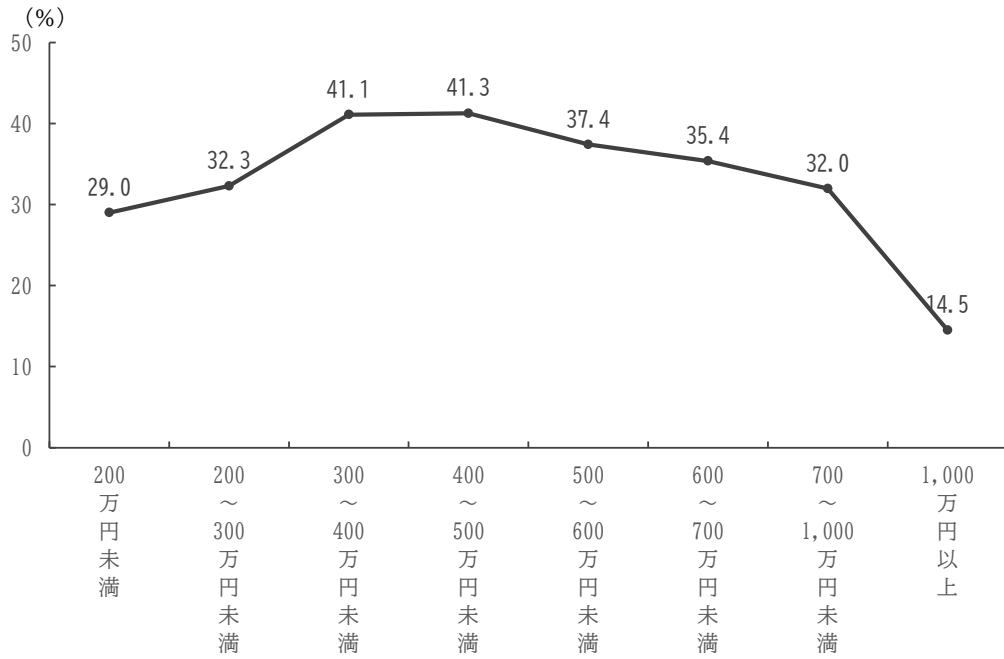
年齢別にみると、29歳以下、30～34歳および45～49歳で『加入・追加加入意向あり』が4割台と高くなっている。（図表Ⅱ-88）

〈図表Ⅱ-88〉加入・追加加入意向の有無（性別、年齢別）



年収別にみると、300～400万円未満、400～500万円未満で『加入・追加加入意向あり』が4割台と高くなっている。(図表Ⅱ-89)

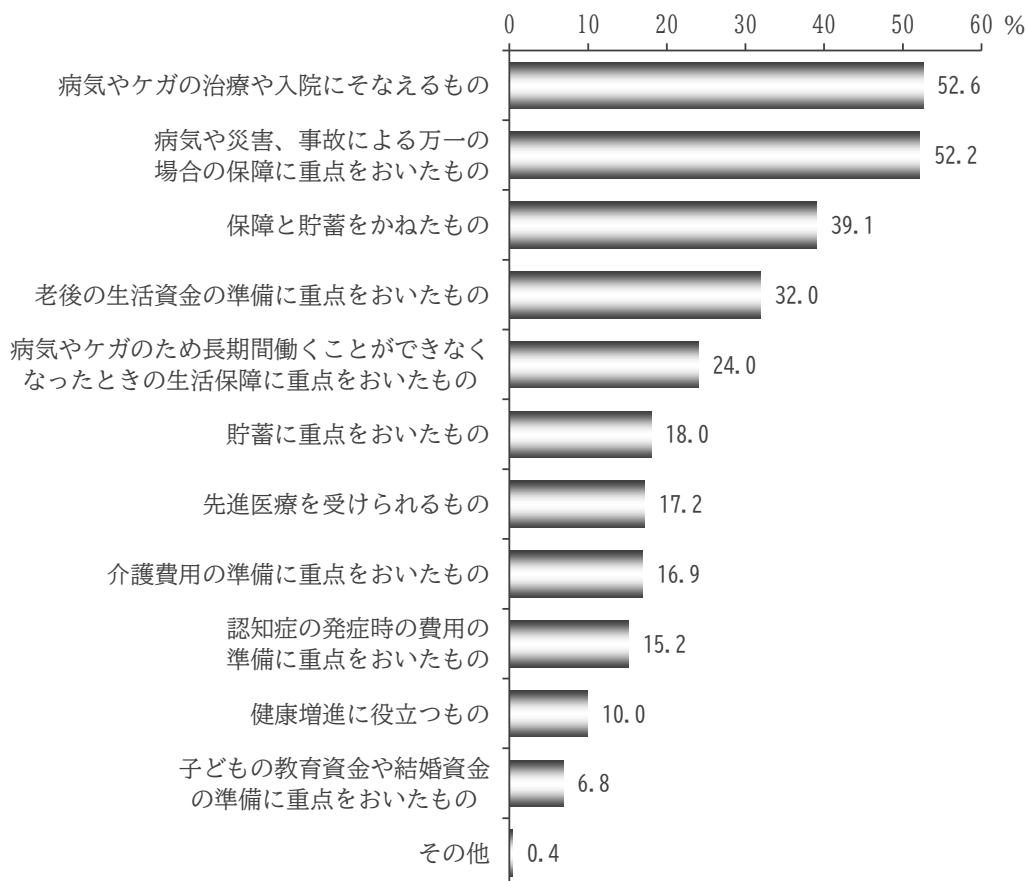
〈図表Ⅱ-89〉加入・追加加入意向の有無(年収別)



(2) 加入・追加加入意向のある保障内容

『加入・追加加入意向あり』と回答した者に、今後加入する際にはどのような種類の生命保険に加入するのが良いと考えているかを尋ねたところ、「病気やケガの治療や入院にそなえるもの」が52.6%と最も多く、次いで「病気や災害、事故による万一の場合の保障に重点をおいたもの」52.2%、「保障と貯蓄をかねたもの」39.1%、「老後の生活資金の準備に重点をおいたもの」32.0%の順となっている。(図表Ⅱ-90)

〈図表Ⅱ-90〉 加入・追加加入意向のある保障内容（複数回答）



性別にみると、男性で「健康増進に役立つもの」「子どもの教育資金や結婚資金の準備に重点をおいたもの」が、それぞれ1割前後と女性に比べ高くなっている。

年齢別にみると、29歳以下で「子どもの教育資金や結婚資金の準備に重点をおいたもの」が、60～64歳で「介護費用の準備に重点をおいたもの」「認知症の発症時の費用の準備に重点をおいたもの」が高い。また、「認知症の発症時の費用の準備に重点をおいたもの」は70～74歳でも高くなっている。(図表Ⅱ-91)

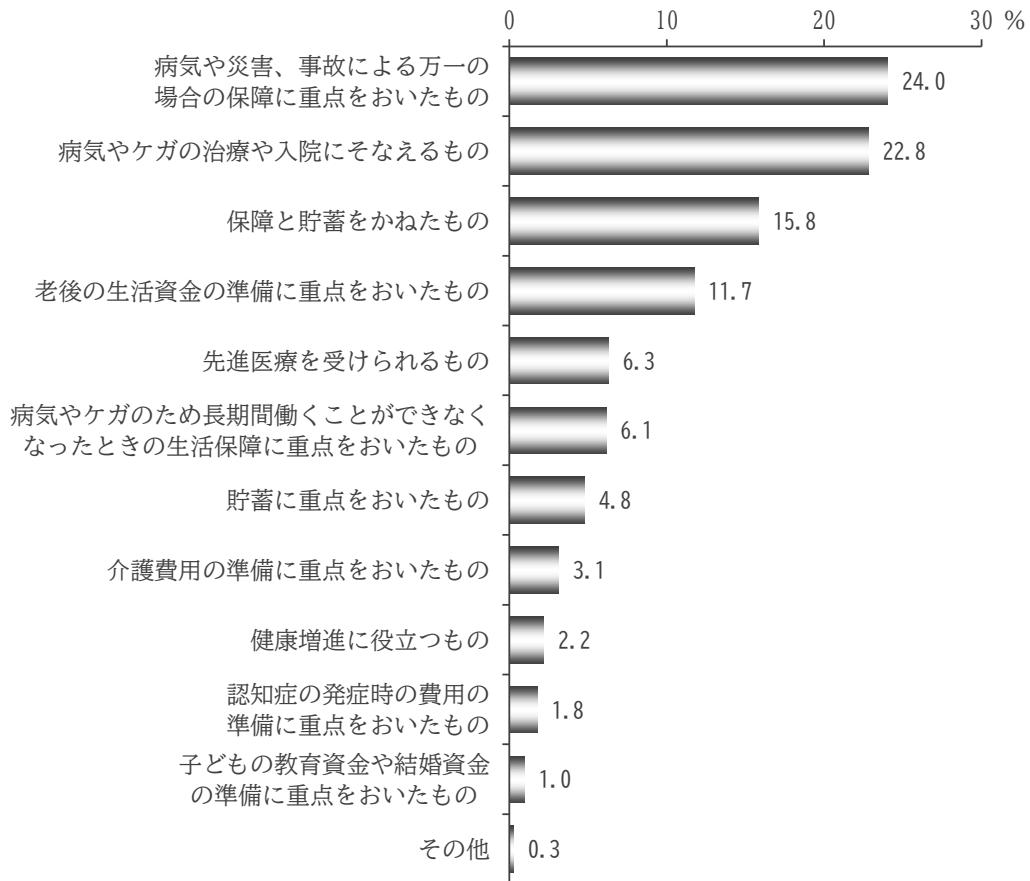
〈図表Ⅱ-91〉加入・追加加入意向のある保障内容（性別、年齢別）（複数回答）

		(%)											
		病気やケガの治療や入院にそなえるもの	病気や災害、事故による万一の場合の保障に重点をおいたもの	保障と貯蓄をかねたもの	老後の生活資金の準備に重点をおいたもの	病気やケガのため長期間働くことができなくなったり生活保障に重点をおいたもの	貯蓄に重点をおいたもの	先進医療を受けられるもの	介護費用の準備に重点をおいたもの	認知症の発症時の費用の準備に重点をおいたもの	健康増進に役立つもの	子どもの教育資金や結婚資金の準備に重点をおいたもの	その他
全体		52.6	52.2	39.1	32.0	24.0	18.0	17.2	16.9	15.2	10.0	6.8	0.4
性別	男性	50.9	55.6	38.5	32.0	22.2	17.8	16.3	16.0	15.2	12.1	9.8	0.5
	女性	54.5	48.4	39.7	31.9	26.1	18.3	18.3	18.0	15.1	7.5	3.5	0.3
年齢別	29歳以下	44.9	50.7	41.9	27.3	26.4	22.0	18.9	13.2	12.3	11.5	12.3	0.9
	30～34歳	42.4	57.6	39.0	25.4	22.0	18.6	6.8	11.9	10.2	11.9	6.8	0.0
	35～39歳	58.1	56.5	38.7	25.8	21.0	12.9	19.4	6.5	4.8	8.1	4.8	0.0
	40～44歳	52.3	45.5	50.0	34.1	29.5	27.3	22.7	15.9	18.2	18.2	9.1	0.0
	45～49歳	53.6	48.8	42.9	39.3	21.4	19.0	16.7	14.3	9.5	7.1	4.8	0.0
	50～54歳	60.4	60.4	34.0	39.6	24.5	15.1	15.1	24.5	20.8	5.7	3.8	0.0
	55～59歳	54.2	50.0	41.7	41.7	31.3	16.7	22.9	22.9	12.5	8.3	0.0	0.0
	60～64歳	61.7	57.4	38.3	40.4	25.5	17.0	17.0	36.2	25.5	8.5	2.1	0.0
	65～69歳	63.6	51.5	18.2	27.3	24.2	0.0	15.2	21.2	18.2	9.1	0.0	0.0
70～74歳	63.0	43.5	30.4	30.4	15.2	10.9	15.2	21.7	37.0	6.5	2.2	0.0	
75～79歳	58.6	58.6	34.5	34.5	13.8	20.7	13.8	20.7	20.7	13.8	10.3	3.4	

*75～79歳はサンプルが30未満

どのような種類の生命保険に加入するのが最も良いかをみると、「病気や災害、事故による万一の場合の保障に重点をおいたもの」が 24.0%で最も多く、次いで「病気やケガの治療や入院にそなえるもの」22.8%、「保障と貯蓄をかねたもの」15.8%、「老後の生活資金の準備に重点をおいたもの」11.7%の順となっている。(図表Ⅱ-92)

〈図表 Ⅱ-92〉最も加入・追加加入意向のある保障内容



性別にみると、男性で「病気や災害、事故による万一の場合の保障に重点をおいたもの」が高くなっている。

年齢別にみると、30～34歳で「病気や災害、事故による万一の場合の保障に重点をおいたもの」が、45～49歳から55～59歳で「老後の生活資金に重点をおいたもの」が、65～69歳、70～74歳で「病気やケガの治療や入院にそなえるもの」が、それぞれ高い。また、40～44歳では「貯蓄に重点をおいたもの」が高くなっている。(図表Ⅱ-93)

〈図表Ⅱ-93〉最も加入・追加加入意向のある保障内容（性別、年齢別）

		(%)											
		病気や災害、事故による万一の場合の保障に重点をおいたもの	病気やケガの治療や入院にそなえるもの	保障と貯蓄をかねたもの	老後の生活資金の準備に重点をおいたもの	先進医療を受けられるもの	病気やケガのため長期間働くことができなくなったときの生活保障に重点をおいたもの	貯蓄に重点をおいたもの	介護費用の準備に重点をおいたもの	健康増進に役立つもの	認知症の発症時の費用の準備に重点をおいたもの	子どもの教育資金や結婚資金の準備に重点をおいたもの	その他
全体		24.0	22.8	15.8	11.7	6.3	6.1	4.8	3.1	2.2	1.8	1.0	0.3
性別	男性	28.7	22.0	15.0	11.6	5.2	5.4	4.4	2.6	2.6	1.6	0.8	0.3
	女性	18.8	23.8	16.8	11.9	7.5	7.0	5.2	3.8	1.7	2.0	1.2	0.3
年齢別	29歳以下	27.3	16.7	16.7	7.0	8.4	9.3	5.7	2.2	2.2	1.3	2.6	0.4
	30～34歳	35.6	11.9	18.6	10.2	1.7	5.1	6.8	3.4	6.8	0.0	0.0	0.0
	35～39歳	33.9	21.0	16.1	8.1	8.1	8.1	3.2	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0
	40～44歳	25.0	22.7	20.5	9.1	4.5	2.3	11.4	0.0	4.5	0.0	0.0	0.0
	45～49歳	17.9	21.4	19.0	19.0	6.0	3.6	3.6	2.4	3.6	3.6	0.0	0.0
	50～54歳	22.6	26.4	13.2	20.8	3.8	1.9	3.8	5.7	0.0	1.9	0.0	0.0
	55～59歳	16.7	20.8	14.6	25.0	8.3	8.3	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	60～64歳	23.4	29.8	17.0	10.6	4.3	4.3	0.0	8.5	2.1	0.0	0.0	0.0
	65～69歳	12.1	45.5	9.1	12.1	0.0	9.1	0.0	9.1	0.0	3.0	0.0	0.0
70～74歳	13.0	34.8	8.7	10.9	10.9	4.3	2.2	6.5	0.0	8.7	0.0	0.0	
75～79歳	17.2	41.4	10.3	6.9	3.4	0.0	6.9	3.4	3.4	3.4	0.0	3.4	

*75～79歳はサンプルが30未満

(3) 加入意向のあるチャネル

今後、仮に生命保険や個人年金保険に加入する際に、どのようなチャネルから加入したいと考えているかを尋ねたところ、「通信販売」が35.2%と最も多く、次いで「勤め先や労働組合等を通じて」18.1%、「生命保険会社の営業職員」13.0%、「保険代理店（金融機関を除く）の窓口や営業職員」9.7%の順となっている。（図表Ⅱ-94）

〈図表Ⅱ-94〉 加入意向のあるチャネル

	(%)																		
	生命保険会社の営業職員	家庭に来る営業職員	職場に来る営業職員	通信販売	インターネットを通じて	テレビ・新聞・雑誌などを通じて	生命保険会社の窓口	郵便局の窓口や営業職員	銀行・証券会社を通して	銀行を通して	都市銀行の窓口や銀行員（ゆうちょ銀行を含む）	地方銀行、信用金庫、信用組合の窓口や銀行員	信託銀行の窓口や銀行員	証券会社の窓口や営業職員	保険代理店（金融機関を除く）の窓口や営業職員	保険代理店（金融機関を除く）の営業職員	勤め先や労働組合等を通じて	その他	
2024 (令和6)年	13.0	9.3	3.6	35.2	33.6	1.5	8.6	3.3	6.3	5.1	1.9	2.5	0.8	1.1	9.7	5.5	4.3	18.1	5.8

性別にみると、男性で「インターネットを通じて」が、女性で「保険代理店（金融機関を除く）の窓口や営業職員」、「生命保険会社の窓口」「銀行を通して」が高くなっている。

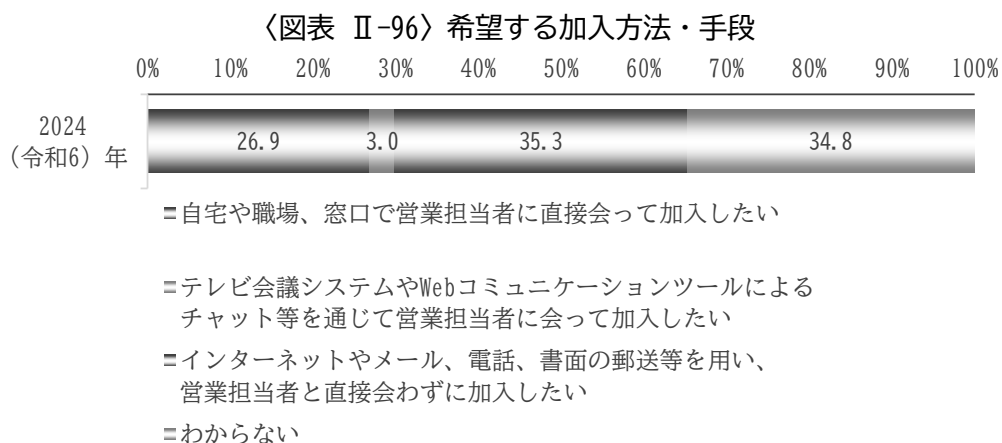
年齢別にみると45～49歳、55～59歳、60～64歳で「インターネットを通じて」が高く、65～69歳で「家庭に来る営業職員」が、70～74歳、75～79歳で「銀行を通して」が高い。また、70～74歳では「保険代理店（金融機関を除く）の営業職員」も高くなっている。（図表Ⅱ-95）

〈図表Ⅱ-95〉加入意向のあるチャネル（性別、年齢別）

		(%)																		
		生命保険会社の営業職員	家庭に来る営業職員	職場に来る営業職員	通信販売	インターネットを通じて	テレビ・新聞・雑誌などを通じて	生命保険会社の窓口	郵便局の窓口や営業職員	銀行・証券会社を通して	銀行を通して	都市銀行の窓口や銀行員（ゆうちょ銀行を含む）	地方銀行、信用金庫、信用組合の窓口や銀行員	信託銀行の窓口や銀行員	証券会社の窓口や営業職員	保険代理店（金融機関を除く）の窓口や営業職員	保険代理店（金融機関を除く）の営業職員	保険代理店（金融機関を除く）の窓口	勤め先や労働組合等を通じて	その他
		全体		13.0	9.3	3.6	35.2	33.6	1.5	8.6	3.3	6.3	5.1	1.9	2.5	0.8	1.1	9.7	5.5	4.3
性別	男性	13.9	9.8	4.2	38.7	37.1	1.6	7.4	2.7	5.1	3.8	1.3	1.7	0.8	1.2	6.9	3.4	3.5	19.4	5.9
	女性	11.7	8.7	3.0	30.7	29.3	1.4	10.2	4.1	7.8	6.8	2.6	3.4	0.8	1.0	13.3	8.0	5.2	16.4	5.8
年齢別	29歳以下	14.2	8.9	5.3	21.4	19.9	1.5	10.6	1.3	5.3	4.2	1.1	1.9	1.3	1.1	5.9	2.8	3.2	38.6	2.8
	30～34歳	13.4	7.7	5.6	35.2	33.8	1.4	9.9	0.7	3.5	2.8	2.1	0.7	0.0	0.7	6.3	3.5	2.8	26.8	4.2
	35～39歳	11.6	7.5	4.0	29.5	28.3	1.2	9.2	3.5	2.3	2.3	0.6	1.2	0.6	0.0	9.8	6.4	3.5	28.9	5.2
	40～44歳	5.0	2.5	2.5	42.5	41.7	0.8	9.2	1.7	5.8	3.3	0.0	2.5	0.8	2.5	8.3	5.8	2.5	21.7	5.8
	45～49歳	14.7	9.8	4.9	43.6	43.6	0.0	7.4	1.5	5.9	3.9	2.0	1.5	0.5	2.0	7.8	3.9	3.9	15.2	3.9
	50～54歳	9.2	6.9	2.3	41.0	39.9	1.2	8.1	4.6	4.6	4.6	2.3	1.7	0.6	0.0	11.6	8.1	3.5	16.8	4.0
	55～59歳	12.6	8.6	4.0	48.0	47.4	0.6	6.3	3.4	4.0	2.9	1.1	1.1	0.6	1.1	9.7	5.1	4.6	10.3	5.7
	60～64歳	11.5	8.9	2.6	42.7	40.6	2.1	7.8	5.2	3.6	2.6	1.6	0.5	0.5	1.0	14.1	9.4	4.7	6.8	8.3
	65～69歳	19.5	18.1	1.3	39.6	36.2	3.4	7.4	4.0	6.7	4.0	2.0	2.0	0.0	2.7	12.1	6.7	5.4	4.7	6.0
	70～74歳	12.9	10.5	2.3	33.2	31.6	1.6	8.2	7.0	13.7	12.9	3.5	7.4	2.0	0.8	13.7	6.3	7.4	0.8	10.5
75～79歳	14.6	12.5	2.1	35.4	31.3	4.2	8.3	4.9	12.5	11.1	4.9	5.6	0.7	1.4	11.8	6.3	5.6	1.4	11.1	

(4) 希望する加入方法・手段

今後の加入方法として、どのような方法で加入したいかを尋ねたところ、「インターネットやメール、電話、書面の郵送等を用い、営業担当者と直接会わずに加入したい」が35.3%と最も多く、次いで「自宅や職場、窓口で営業担当者に直接会って加入したい」26.9%、「テレビ会議システムやWebコミュニケーションツールによるチャット等を通じて営業担当者に会って加入したい」3.0%と続いている。(図表Ⅱ-96)



性別にみると、男性で「インターネットやメール、電話、書面の郵送等を用い、営業担当者と直接会わずに加入したい」が、女性で「自宅や職場、窓口で営業担当者に直接会って加入したい」が、それぞれ高くなっている。

年齢別にみると 65～69 歳から 75～79 歳で「自宅や職場、窓口で営業担当者に直接会って加入したい」が高く、40～44 歳、50～54 歳、55～59 歳で「インターネットやメール、電話、書面の郵送等を用い、営業担当者と直接会わずに加入したい」が、29 歳以下、40～44 歳で「テレビ会議システムや Web コミュニケーションツールによるチャット等を通じて営業担当者に会って加入したい」が、それぞれ高くなっている。(図表 II-97)

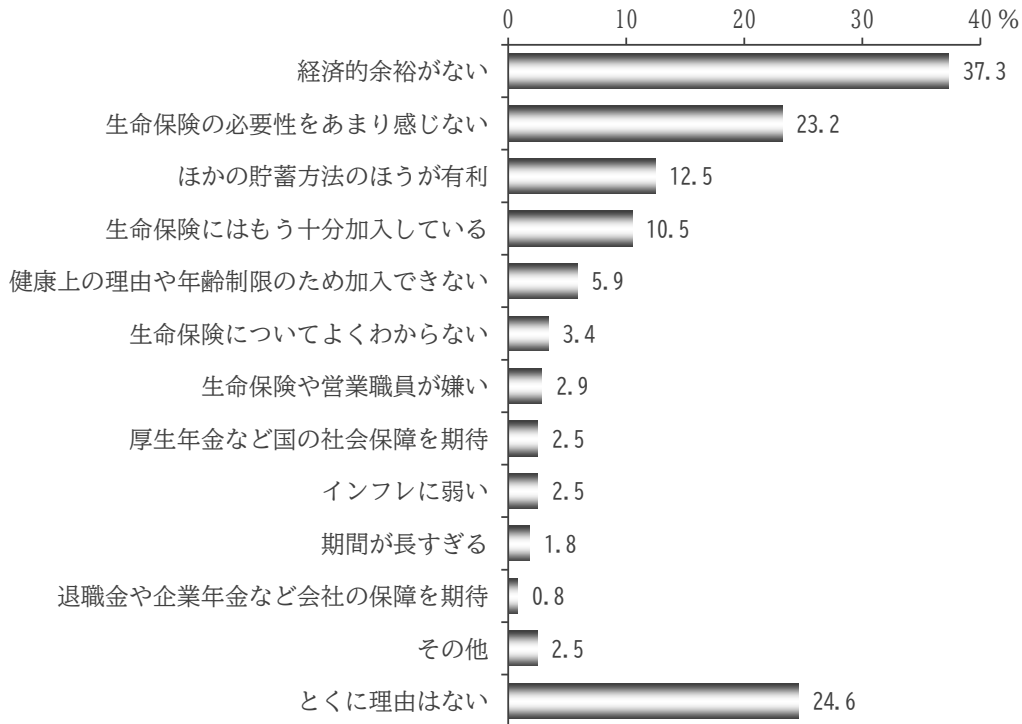
〈図表 II-97〉希望する加入方法・手段(性別、年齢別)

		(%)			
		自宅や職場、窓口で営業担当	担当者に会って加入したい	テレビ会議システムや Web コミュニケーションツールによるチャット等を通じて営業担当者に会って加入したい	電話、書面の郵送等を用い、営業担当者と直接会わずに加入したい
全体		26.9	3.0	35.3	34.8
性別	男性	24.5	3.2	37.8	34.5
	女性	29.8	2.9	32.2	35.1
年齢別	29歳以下	21.6	6.8	26.1	45.6
	30～34歳	25.4	4.9	34.5	35.2
	35～39歳	22.5	3.5	28.3	45.7
	40～44歳	14.2	6.7	49.2	30.0
	45～49歳	18.6	2.0	39.7	39.7
	50～54歳	26.0	2.3	42.8	28.9
	55～59歳	25.1	1.1	45.1	28.6
	60～64歳	31.3	1.0	38.0	29.7
	65～69歳	36.9	0.0	38.3	24.8
70～74歳	41.0	0.4	35.2	23.4	
75～79歳	34.7	0.7	29.9	34.7	

(5) 加入・追加加入意向のない理由

加入・追加加入意向を尋ねた際に「その考えは全くない」と回答した者に、その理由を尋ねたところ、「経済的余裕がない」が37.3%と最も多く、次いで「生命保険の必要性をあまり感じない」23.2%、「ほかの貯蓄方法のほうが有利」12.5%の順となっている。(図表Ⅱ-98)

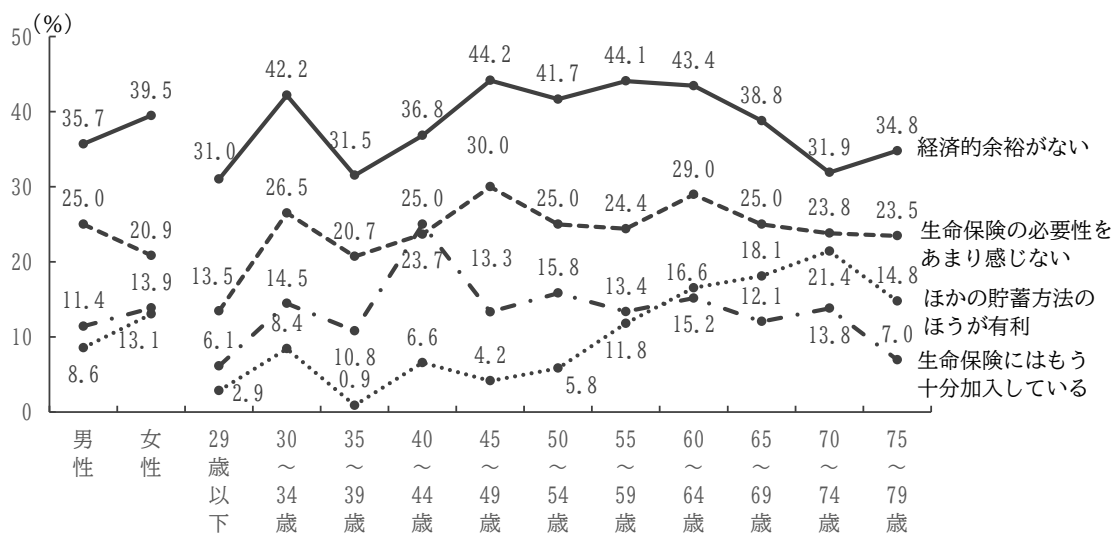
〈図表Ⅱ-98〉加入・追加加入意向のない理由（複数回答）



加入・追加加入意向のない理由（上位4項目）を性別にみると、女性で「生命保険にはもう十分加入している」が高くなっている。

年齢別にみると、60～64歳から70～74歳で「生命保険にはもう十分加入している」が高く、40～44歳で「ほかの貯蓄方法のほうが有利」が高くなっている。(図表Ⅱ-99)

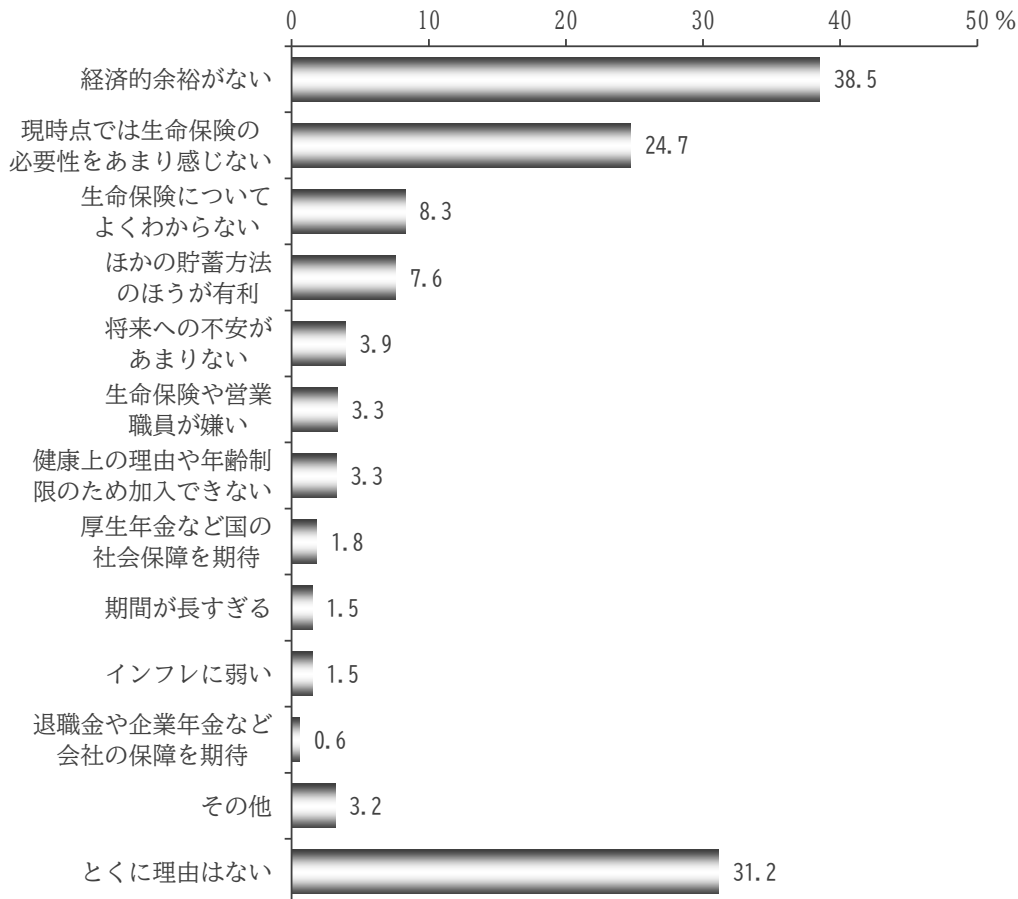
〈図表Ⅱ-99〉加入・追加加入意向のない理由（上位4項目）（性別、年齢別）（複数回答）



(6) 生命保険の非加入理由

生命保険（個人年金保険を含む）の非加入者に、その理由を尋ねたところ、「経済的余裕がない」が 38.5%と最も多く、次いで「現時点では生命保険の必要性をあまり感じない」24.7%、「生命保険についてよくわからない」8.3%の順となっている。（図表Ⅱ-100）

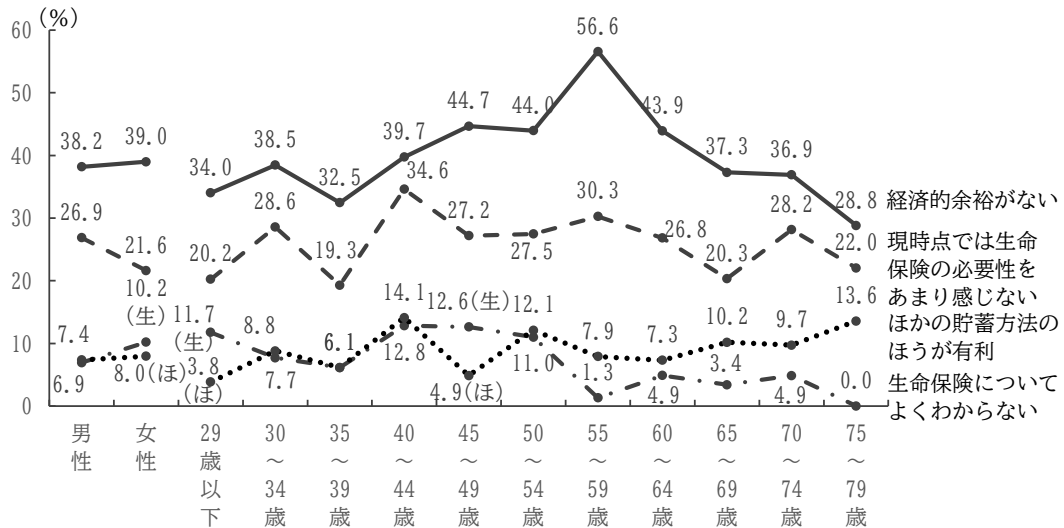
〈図表 Ⅱ-100〉生命保険（個人年金保険を含む）の非加入理由（複数回答）



生命保険（個人年金保険を含む）の非加入理由（上位4項目）を性別にみると、男性で「現時点では生命保険の必要性をあまり感じない」が高く、女性で「生命保険についてよくわからない」が高くなっている。

年齢別にみると、29歳以下で「生命保険についてよくわからない」が高く、40～44歳で「現時点では生命保険の必要性をあまり感じない」「ほかの貯蓄方法のほうが有利」が、55～59歳で「経済的余裕がない」が高くなっている。（図表Ⅱ-101）

〈図表Ⅱ-101〉生命保険（個人年金保険を含む）の非加入理由（上位4項目）
（性別、年齢別）（複数回答）



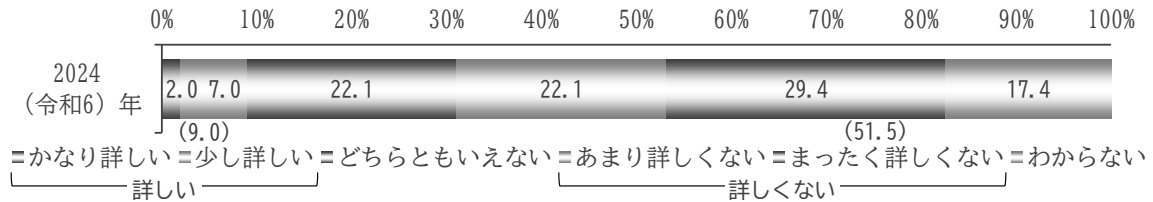
(7) 生命保険・金融に関する知識

(ア) 生命保険に関する知識

生命保険に関する知識をどの程度持っているかを尋ねたところ、『詳しくない』（「あまり詳しくない」と「まったく詳しくない」の合計）が51.5%と半数を占めて多くなっている。

（図表Ⅱ-102）

〈図表Ⅱ-102〉生命保険に関する知識



性別にみると、男性で「詳しい」が、女性で「詳しくない」が、それぞれ高くなっている。年齢別にみると、70～74歳、75～79歳で「詳しい」が高くなっている。（図表Ⅱ-103）

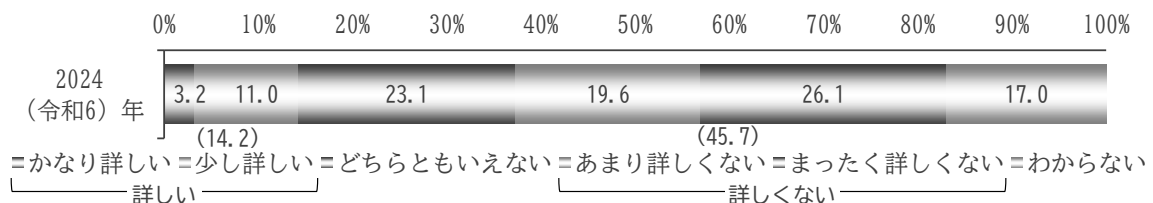
〈図表Ⅱ-103〉生命保険に関する知識（性別、年齢別）

		(%)							
		かなり詳しい	少し詳しい	詳しい	どちらともいえない	詳しくない	あまり詳しくない	まったく詳しくない	わからない
	全体	2.0	7.0	9.0	22.1	51.5	22.1	29.4	17.4
性別	男性	2.7	8.4	11.1	23.6	48.0	21.8	26.2	17.4
	女性	1.0	5.3	6.4	20.2	55.9	22.5	33.4	17.5
年齢別	29歳以下	1.3	6.4	7.6	18.0	47.5	16.5	30.9	26.9
	30～34歳	1.4	6.3	7.7	18.3	57.7	23.2	34.5	16.2
	35～39歳	1.7	6.4	8.1	20.2	42.8	15.0	27.7	28.9
	40～44歳	1.7	7.5	9.2	20.0	53.3	22.5	30.8	17.5
	45～49歳	1.5	4.9	6.4	21.6	56.4	21.6	34.8	15.7
	50～54歳	0.6	4.6	5.2	23.1	57.2	22.0	35.3	14.5
	55～59歳	2.3	6.9	9.1	21.7	54.3	24.0	30.3	14.9
	60～64歳	3.1	5.2	8.3	26.0	50.5	21.9	28.6	15.1
	65～69歳	2.7	10.7	13.4	23.5	50.3	28.9	21.5	12.8
	70～74歳	3.5	9.0	12.5	28.9	52.3	29.3	23.0	6.3
75～79歳	2.1	11.8	13.9	24.3	51.4	26.4	25.0	10.4	

(イ) 金融に関する知識

金融に関する知識をどの程度持っているかを尋ねたところ、『詳しくない』（「あまり詳しくない」と「まったく詳しくない」の合計）が45.7%と『詳しい』（「かなり詳しい」と「少し詳しい」の合計）14.2%に比べ多くなっている。（図表Ⅱ-104）

〈図表Ⅱ-104〉金融に関する知識



性別にみると、男性で「詳しい」が、女性で「詳しくない」が、それぞれ高くなっている。
 年齢別にみると、70～74歳で「詳しい」が高くなっている。(図表Ⅱ-105)

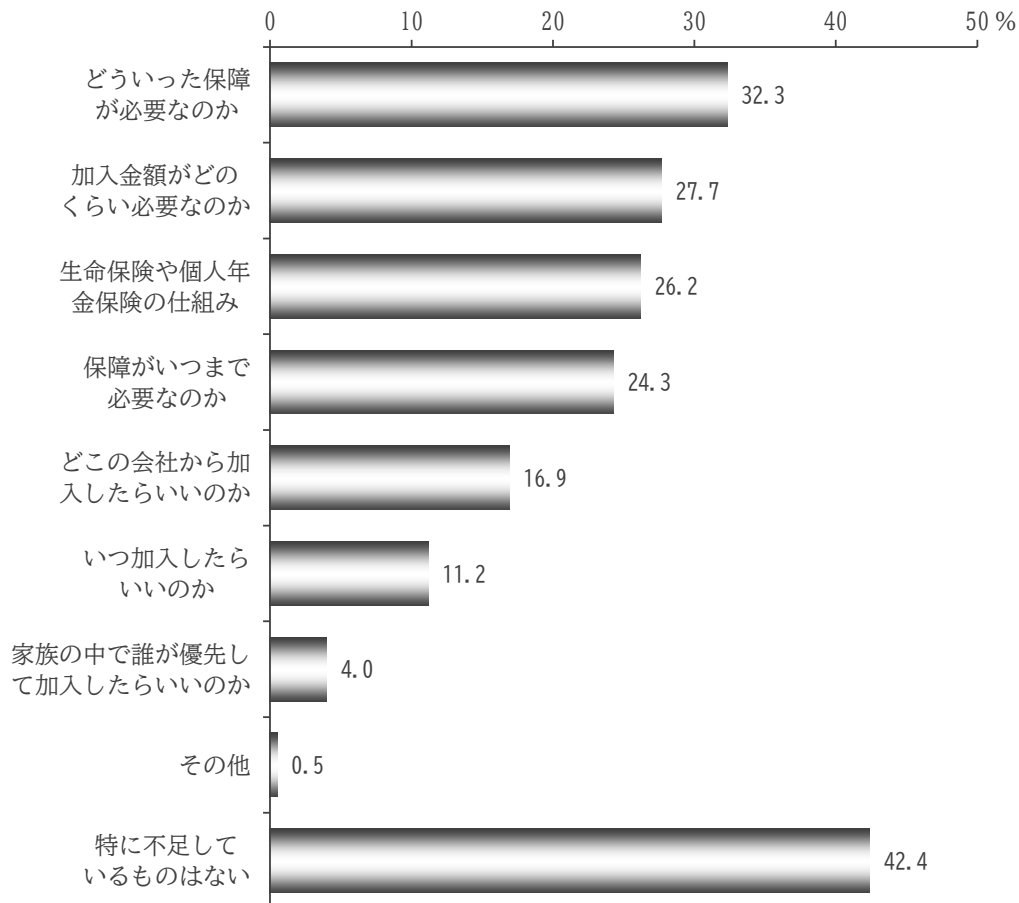
〈図表Ⅱ-105〉金融に関する知識（性別、年齢別）

		(%)							
		かなり詳しい	少し詳しい	詳しい	どちらともいえない	詳しくない	あまり詳しくない	まったく詳しくない	わからない
全 体		3.2	11.0	14.2	23.1	45.7	19.6	26.1	17.0
性別	男 性	4.5	13.2	17.7	25.6	40.1	17.2	22.9	16.6
	女 性	1.5	8.3	9.9	19.9	52.8	22.7	30.1	17.4
年齢別	29歳以下	2.1	10.0	12.1	19.3	41.9	14.8	27.1	26.7
	30～34歳	2.8	9.9	12.7	21.1	51.4	21.8	29.6	14.8
	35～39歳	2.3	9.8	12.1	17.9	41.0	14.5	26.6	28.9
	40～44歳	4.2	11.7	15.8	19.2	48.3	18.3	30.0	16.7
	45～49歳	2.0	9.3	11.3	25.0	48.5	20.1	28.4	15.2
	50～54歳	2.9	10.4	13.3	21.4	51.4	18.5	32.9	13.9
	55～59歳	2.9	11.4	14.3	26.9	45.7	22.3	23.4	13.1
	60～64歳	4.2	9.4	13.5	26.0	45.8	19.8	26.0	14.6
	65～69歳	8.1	11.4	19.5	25.5	40.9	22.8	18.1	14.1
	70～74歳	3.9	14.5	18.4	27.7	48.4	27.0	21.5	5.5
75～79歳	2.1	15.3	17.4	27.1	45.1	21.5	23.6	10.4	

(8) 不足している生命保険知識

生命保険や個人年金保険に加入する場合に必要と考えられる知識の中で、不足していると思われるものを尋ねたところ、「どういった保障が必要なのか」が32.3%と最も多く、次いで「加入金額がどのくらい必要なのか」27.7%、「生命保険や個人年金保険の仕組み」26.2%の順となっている。(図表Ⅱ-106)

〈図表Ⅱ-106〉 不足している生命保険知識（複数回答）



性別にみると、女性で「どういった保障が必要なのか」「加入金額がどのくらい必要なのか」「生命保険や個人年金保険の仕組み」「保障がいつまで必要なのか」が男性に比べ高くなっている。

年齢別にみると 29 歳以下、30～34 歳で「生命保険や個人年金保険の仕組み」「どこの会社から加入したらいいのか」が高く、29 歳以下では「いつ加入したらいいのか」も高い。また、40～44 歳で「加入金額がどのくらい必要なのか」が、55～59 歳で「保障がいつまで必要なのか」が高くなっている。(図表Ⅱ-107)

〈図表 Ⅱ-107〉 不足している生命保険知識（性別、年齢別）（複数回答）

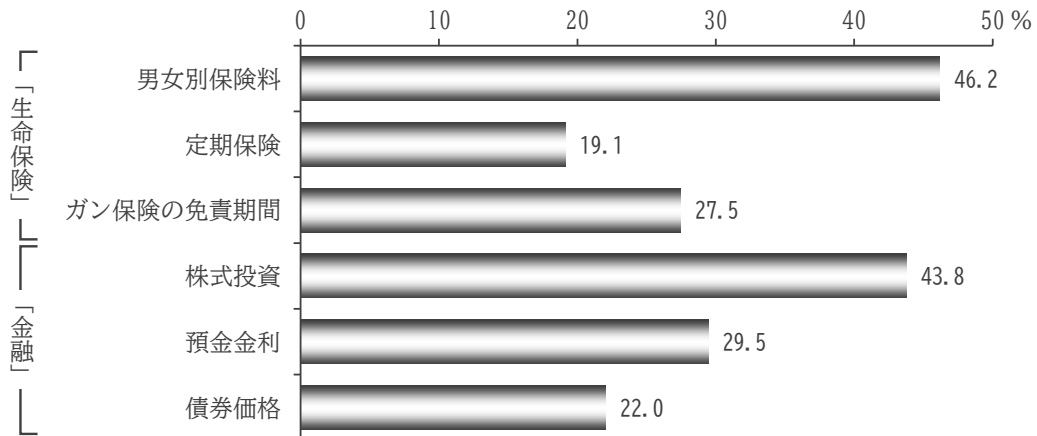
		(%)								
		どういった保障が必要なのか	加入金額がどのくらい必要なのか	生命保険や個人年金保険の仕組み	保障がいつまで必要なのか	どこの会社から加入したらいいのか	いつ加入したらいいのか	家族の中で誰が優先して加入したらいいのか	その他	特に不足しているものはない
	全体	32.3	27.7	26.2	24.3	16.9	11.2	4.0	0.5	42.4
性別	男性	29.9	25.9	24.1	20.8	16.2	11.3	4.0	0.6	46.0
	女性	35.4	29.9	28.8	28.7	17.8	11.0	4.0	0.4	37.8
年齢別	29歳以下	31.1	29.0	31.4	19.5	22.5	19.3	8.9	0.0	43.4
	30～34歳	38.0	28.9	34.5	19.7	25.4	15.5	6.3	0.0	34.5
	35～39歳	31.8	19.7	22.5	17.3	17.3	13.9	3.5	0.0	48.6
	40～44歳	31.7	35.8	26.7	29.2	20.0	12.5	7.5	0.0	41.7
	45～49歳	34.3	24.0	31.4	23.0	17.2	13.2	3.9	1.5	40.7
	50～54歳	36.4	27.2	26.6	26.0	16.2	9.2	4.0	0.0	41.6
	55～59歳	30.9	29.7	25.7	30.9	12.6	8.0	0.6	0.6	40.6
	60～64歳	36.5	27.6	28.1	29.2	14.1	7.3	1.6	1.6	40.6
	65～69歳	31.5	26.8	20.8	28.9	10.1	3.4	0.0	0.0	44.3
	70～74歳	29.3	28.9	17.6	25.4	13.7	3.9	0.4	0.8	43.8
	75～79歳	26.4	27.1	16.0	27.1	9.7	5.6	1.4	1.4	43.8

(9) 生命保険や金融に関する知識量

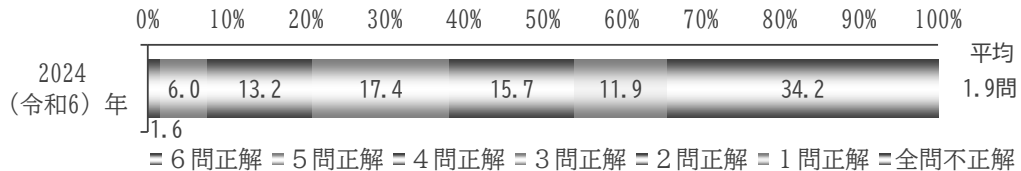
生命保険や金融に関する説明を6項目示し、それぞれの内容が正しいか誤りかを尋ねたところ、正答率は「男女別保険料」が46.2%で最も高く、以下「株式投資」43.8%、「預金金利」29.5%、「ガン保険の免責期間」27.5%の順となっている。

正答数の分布をみると、「全問不正解」が34.2%で最も多く、以下「3問正解」17.4%、「2問正解」15.7%、「4問正解」13.2%、「1問正解」11.9%の順となっている。(図表Ⅱ-108)

〈図表Ⅱ-108〉生命保険や金融に関する知識量



- 「男女別保険料」・・・生命保険の保険料は、同じ年齢で比較すると、男女間に差異はない
- 「定期保険」・・・定期保険は満期時に満期保険金を受け取れる
- 「ガン保険の免責期間」・・・ガン保険加入後、一定期間内はガンにかかっても保険金は支払われない
- 「株式投資」・・・一般的に、1社の株式だけに投資する方が、多くの会社の株式に分散投資するよりも投資収益は安定する
- 「預金金利」・・・お金を預ける場合、金利が下降傾向にあるときは固定金利の商品が望ましい
- 「債券価格」・・・一般に、利子率が上昇すると債券価格も上昇する



正答数の分布を性別にみると、男性で「5問正解」が女性に比べ高くなっている。

年齢別にみると、65～69歳から75～79歳で「3問正解」が高く、40～44歳、55～59歳、60～64歳、70～74歳で「4問正解」が高い。また、35～39歳で「全問不正解」が、45～49歳で「2問正解」が、それぞれ高くなっている。(図表Ⅱ-109)

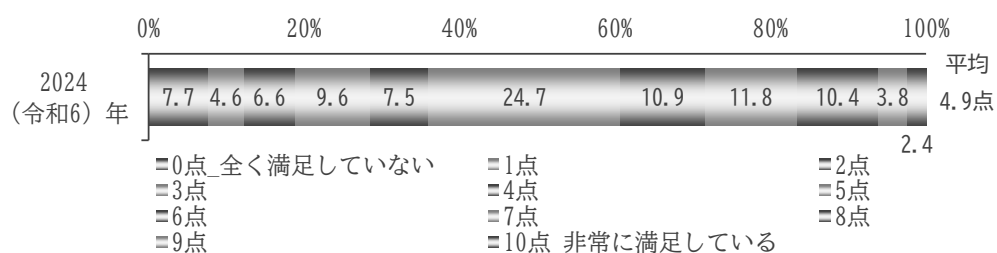
〈図表Ⅱ-109〉生命保険や金融に関する知識量（性別、年齢別）

		(%)						
		6問正解	5問正解	4問正解	3問正解	2問正解	1問正解	全問不正解
全体		1.6	6.0	13.2	17.4	15.7	11.9	34.2
性別	男性	2.0	6.8	13.0	17.1	15.7	10.8	34.6
	女性	1.2	4.8	13.6	17.8	15.7	13.3	33.6
年齢別	29歳以下	0.8	3.0	7.0	13.8	16.1	10.6	48.7
	30～34歳	1.4	3.5	9.9	21.1	12.0	14.8	37.3
	35～39歳	2.3	2.9	5.8	9.2	16.8	12.7	50.3
	40～44歳	1.7	5.0	20.0	13.3	12.5	11.7	35.8
	45～49歳	2.5	4.4	10.3	14.2	20.6	10.8	37.3
	50～54歳	1.7	9.2	15.0	11.6	14.5	16.2	31.8
	55～59歳	2.9	8.0	18.3	15.4	13.1	12.6	29.7
	60～64歳	1.0	6.8	21.4	20.8	11.5	12.0	26.6
	65～69歳	3.4	6.0	13.4	26.2	16.8	10.7	23.5
	70～74歳	1.2	11.7	19.1	23.0	18.0	10.5	16.4
75～79歳	0.7	6.9	14.6	29.2	18.1	11.1	19.4	

(10) 生活満足度

現在の生活に対する満足度を10点満点で答えてもらったところ、「5点」が24.7%で最も多く、次いで「7点」11.8%、「6点」10.9%、「8点」10.4点の順となっている。(図表Ⅱ-110)

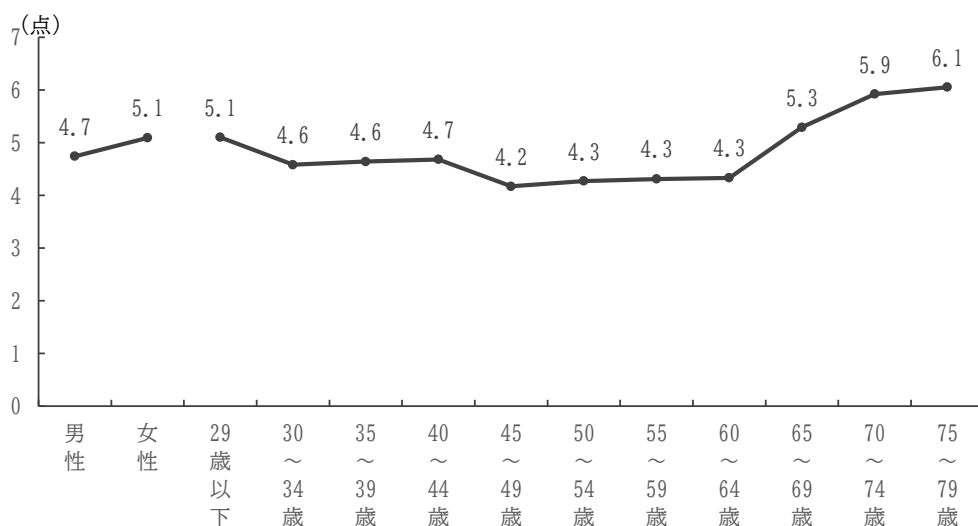
〈図表Ⅱ-110〉生活満足度



平均点を性別にみると、女性が5.1点と男性に比べ高くなっている。

年齢別にみると、29歳以下および65～69歳から75～79歳で5点を超えて高くなっている。(図表Ⅱ-111)

〈図表Ⅱ-111〉生活満足度(性別、年齢別)



(11) 生命保険の加入・継続意向

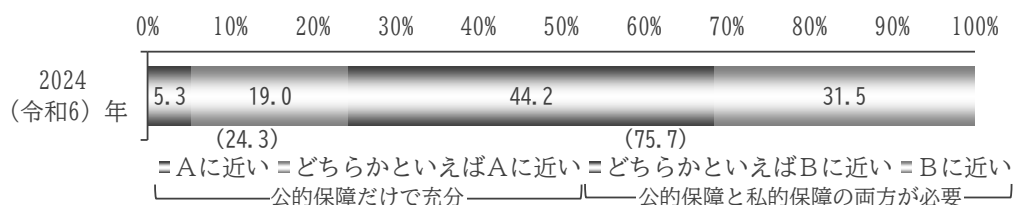
(ア) 生活保障における公的保障と私的保障についての考え方

生活保障(万一の際や、病気・ケガや介護、老後の経済的備え)に関する次のような考え方について、A、Bどちらの考え方に近いかを尋ねた。

- A : 生活保障は、公的保障(公的年金等)だけで充分だと思っている
- B : 生活保障は、公的保障と自助努力による私的保障(生命保険、個人年金等)の両方で準備していく必要がある

その結果、『公的保障だけで充分』(「Aに近い」と「どちらかといえばAに近い」の合計)が24.3%、『公的保障と私的保障の両方が必要』(「Bに近い」と「どちらかといえばBに近い」の合計)が75.7%となっている。(図表Ⅱ-112)

〈図表Ⅱ-112〉生活保障における公的保障と私的保障についての考え方



性別にみると、男性で『公的保障だけで十分』が、女性で『公的保障と私的保障の両方が必要』が、それぞれ高くなっている。

年齢別にみると、29歳以下、35～39歳で『公的保障だけで十分』が、60～64歳で『公的保障と私的保障の両方が必要』が、高くなっている。(図表Ⅱ-113)

〈図表Ⅱ-113〉生活保障における公的保障と私的保障についての考え方(性別、年齢別)

		(%)					
		Aに近い	どちらか といえば Aに近い	公的保障 だけで充 分	私的保障 も必要	どちらか といえば Bに近い	Bに近い
全 体		5.3	19.0	24.3	75.7	44.2	31.5
性 別	男 性	7.1	21.8	28.9	71.1	43.3	27.9
	女 性	3.1	15.5	18.6	81.4	45.3	36.1
年 齢 別	29歳以下	6.4	23.1	29.4	70.6	51.9	18.6
	30～34歳	4.2	20.4	24.6	75.4	45.8	29.6
	35～39歳	6.9	23.7	30.6	69.4	44.5	24.9
	40～44歳	8.3	20.0	28.3	71.7	44.2	27.5
	45～49歳	4.9	18.1	23.0	77.0	44.1	32.8
	50～54歳	5.2	19.7	24.9	75.1	47.4	27.7
	55～59歳	1.7	17.1	18.9	81.1	42.3	38.9
	60～64歳	6.3	12.0	18.2	81.8	37.5	44.3
	65～69歳	5.4	13.4	18.8	81.2	39.6	41.6
	70～74歳	4.7	18.4	23.0	77.0	37.5	39.5
75～79歳	3.5	16.7	20.1	79.9	41.0	38.9	

(イ) 生活保障の準備に対する考え方

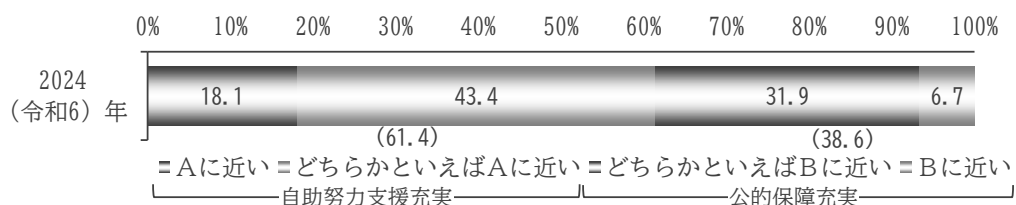
生活保障における公的保障と私的保障についての考え方を尋ねた際に「私的保障も必要」と回答した者に、生活保障を準備するための考え方について、A、Bどちらの考え方に近いかを尋ねた。

A：自助努力のための支援を充実して欲しい

B：今よりも高い社会保険料や税金を払ってもよいので、公的保障を充実して欲しい

その結果、『自助努力支援充実』(「Aに近い」と「どちらかといえばAに近い」の合計)が61.4%、『公的保障充実』(「Bに近い」と「どちらかといえばBに近い」の合計)が38.6%となっている。(図表Ⅱ-114)

〈図表Ⅱ-114〉生活保障の準備に対する考え方



性別にみると、男性で『公的保障充実』が、女性で『自助努力支援充実』が、それぞれ高くなっている。

年齢別にみると、29歳以下、35～39歳で『公的保障充実』が高くなっている。(図表Ⅱ-115)

〈図表 Ⅱ-115〉生活保障の準備に対する考え方(性別、年齢別)

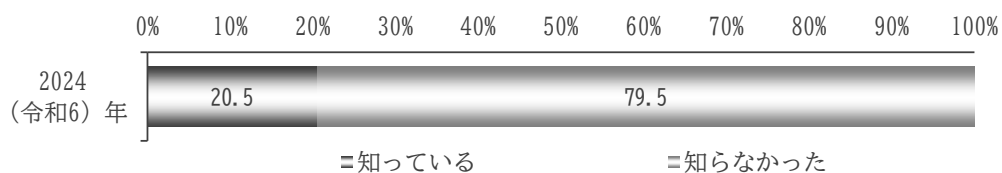
		(%)					
		Aに近い	どちらか といえば Aに近い	自助努力 支援充実	公的保障 充実	どちらか といえば Bに近い	Bに近い
全 体		18.1	43.4	61.4	38.6	31.9	6.7
性 別	男 性	18.2	40.9	59.1	40.9	33.9	7.0
	女 性	17.9	46.1	64.0	36.0	29.7	6.3
年 齢 別	29歳以下	15.6	38.4	54.1	45.9	37.5	8.4
	30～34歳	20.6	42.1	62.6	37.4	33.6	3.7
	35～39歳	11.7	39.2	50.8	49.2	40.0	9.2
	40～44歳	17.4	50.0	67.4	32.6	26.7	5.8
	45～49歳	24.8	39.5	64.3	35.7	29.3	6.4
	50～54歳	20.0	43.8	63.8	36.2	31.5	4.6
	55～59歳	19.0	45.1	64.1	35.9	32.4	3.5
	60～64歳	25.5	42.7	68.2	31.8	26.1	5.7
	65～69歳	19.0	44.6	63.6	36.4	23.1	13.2
	70～74歳	9.1	55.3	64.5	35.5	32.5	3.0
75～79歳	21.7	40.0	61.7	38.3	28.7	9.6	

(ウ) 生命保険料控除制度の認知

現在の生命保険料控除制度が遺族保障などの自助努力を支援する「一般生命保険料控除制度」と介護医療保障などの自助努力を支援する「介護医療保険料控除制度」(従来の制度はこれらをあわせて「生命保険料控除制度」)、老後保障の自助努力を支援する「個人年金保険料控除制度」)の3種類となっていることを知っているかどうかを尋ねた。

その結果、「知っている」が20.5%、「知らなかった」が79.5%となっている。(図表Ⅱ-116)

〈図表 Ⅱ-116〉生命保険料控除制度の認知



性別にみても、大きな差異はみられない。

年齢別にみると、29歳以下で「知らなかった」が高く、55～59歳から65～69歳で「知っている」が高くなっている。(図表Ⅱ-117)

〈図表Ⅱ-117〉生命保険料控除制度の認知(性別、年齢別)

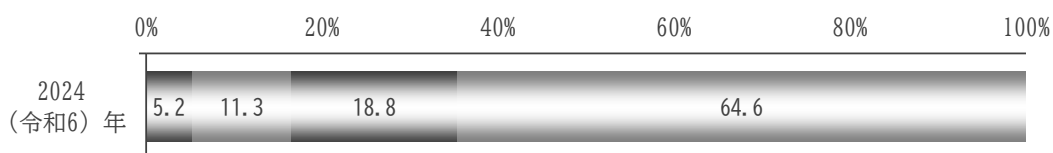
		(%)	
		知っている	知らなかった
全 体		20.5	79.5
性 別	男 性	21.4	78.6
	女 性	19.3	80.7
年 齢 別	29歳以下	13.1	86.9
	30～34歳	18.3	81.7
	35～39歳	15.0	85.0
	40～44歳	27.5	72.5
	45～49歳	19.1	80.9
	50～54歳	18.5	81.5
	55～59歳	27.4	72.6
	60～64歳	27.1	72.9
	65～69歳	28.9	71.1
	70～74歳	21.9	78.1
	75～79歳	23.6	76.4

(エ) 生命保険料控除制度が拡充された場合の対応

生命保険料控除制度が仮に拡充された場合、今後の保険への加入についてどのように考えているのかを尋ねた。

その結果、「将来、保険の保障内容を充実させる際の励みになると思う」が18.8%、「新たに保険に加入したり、現在加入している保険を見直し、より充実した保障内容にすることを検討しようと思う」が11.3%、「新たに保険に加入したり、現在加入している保険を見直し、より充実した保障内容にする」が5.2%となっている。一方、「なんとも思わない」は64.6%となっている。(図表Ⅱ-118)

〈図表Ⅱ-118〉生命保険料控除制度が拡充された場合の対応



＝新たに保険に加入したり、現在加入している保険を見直し、より充実した保障内容にする

＝新たに保険に加入したり、現在加入している保険を見直し、より充実した保障内容にすることを検討しようと思う

＝将来、保険の保障内容を充実させる際の励みになると思う

＝なんとも思わない

性別にみると、女性で「将来、保険の保障内容を充実させる際の励みになると思う」が高くなっている。

年齢別にみると、30～34歳で「新たに保険に加入したり、現在加入している保険を見直し、より充実した保障内容にすることを検討しようと思う」が高くなっている。(図表Ⅱ-119)

〈図表Ⅱ-119〉生命保険料控除制度が拡充された場合の対応（性別、年齢別）

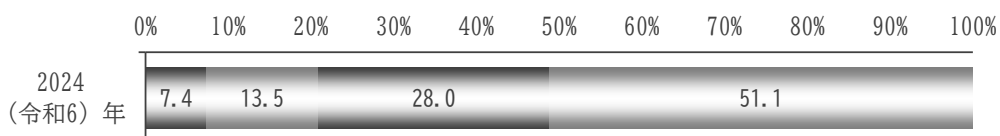
		(%)			
		新たに保険に加入したり、現在加入している保険を見直し、より充実した保障内容にする	新たに保険に加入したり、現在加入している保険を見直し、より充実した保障内容にすることを検討しようと思う	将来、保険の保障内容を充実させる際の励みになると思う	なんとも思わない
全体		5.2	11.3	18.8	64.6
性別	男性	5.7	10.7	17.3	66.3
	女性	4.6	12.1	20.8	62.5
年齢別	29歳以下	5.5	13.3	19.9	61.2
	30～34歳	7.0	16.9	21.1	54.9
	35～39歳	8.1	12.7	13.3	65.9
	40～44歳	7.5	12.5	19.2	60.8
	45～49歳	3.9	13.2	22.5	60.3
	50～54歳	4.6	6.9	19.7	68.8
	55～59歳	5.7	7.4	16.6	70.3
	60～64歳	4.2	8.3	15.6	71.9
	65～69歳	4.7	8.1	18.1	69.1
	70～74歳	3.5	10.5	17.6	68.4
75～79歳	4.2	12.5	22.9	60.4	

(オ) 生命保険料控除制度が縮小・廃止された場合の対応

「一般生命保険料控除制度」、「介護医療保険料控除制度」、「個人年金保険料控除制度」が仮に縮小・廃止された場合、現在加入している保険についてどのように考えているのかを尋ねた。

その結果、「現在加入している保険を続けていけるかどうか不安に思う」は28.0%、「現在加入している保険に関して解約あるいは減額を検討しようと思う」は13.5%、「現在加入している保険に関して解約あるいは減額をする」は7.4%となっている。一方、「なんとも思わない」は51.1%となっている。(図表Ⅱ-120)

〈図表Ⅱ-120〉生命保険料控除制度が縮小・廃止された場合の対応
(生命保険の加入者ベース)



- 現在加入している保険に関して解約あるいは減額をする
- 現在加入している保険に関して解約あるいは減額を検討しようと思う
- 現在加入している保険を続けていけるかどうか不安に思う
- なんとも思わない

性別にみると、男性で「現在加入している保険に関して解約あるいは減額をする」が、女性で「現在加入している保険を続けていけるかどうか不安に思う」が、それぞれ高くなっている。

年齢別にみると、29歳以下から35～39歳で「現在加入している保険に関して解約あるいは減額をする」が高く、29歳以下、45～49歳で「現在加入している保険に関して解約あるいは減額を検討しようと思う」が高くなっている。(図表Ⅱ-121)

〈図表 Ⅱ-121〉生命保険料控除制度が縮小・廃止された場合の対応
(性別、年齢別) (生命保険の加入者ベース)

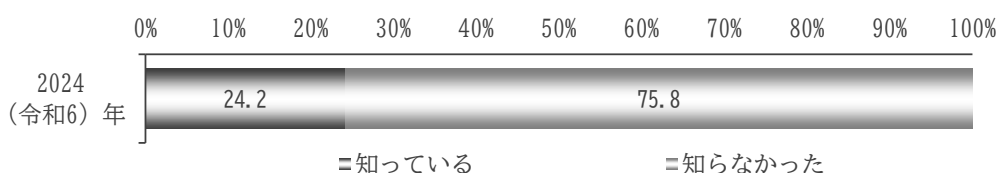
		(%)			
		現在加入している 保険に関して解約 あるいは減額をす る	現在加入している 保険に関して解約 あるいは減額を検 討しようと思う	現在加入している 保険を続けていけ るかどうか不安に 思う	なんとも思わない
全 体		7.4	13.5	28.0	51.1
性 別	男 性	9.8	14.8	23.8	51.5
	女 性	4.8	12.0	32.5	50.7
年 齢 別	29歳以下	13.0	24.4	29.0	33.6
	30～34歳	17.6	17.6	27.5	37.3
	35～39歳	16.9	18.6	30.5	33.9
	40～44歳	9.5	16.7	28.6	45.2
	45～49歳	5.9	20.8	30.7	42.6
	50～54歳	7.3	9.8	30.5	52.4
	55～59歳	3.0	15.2	23.2	58.6
	60～64歳	8.2	7.3	30.0	54.5
	65～69歳	2.2	13.3	16.7	67.8
	70～74歳	3.3	7.2	27.5	62.1
75～79歳	3.5	1.2	35.3	60.0	

(カ) 死亡保険金の相続税非課税措置の認知

残された家族の生活資金確保等のため、受け取った死亡保険金の額のうち「すべての法定相続人×500万円」に相当する金額については相続税が非課税とされる制度(死亡保険金の相続税非課税措置)について、知っているかどうかを尋ねた。

その結果、「知っている」は24.2%、「知らなかった」は75.8%となっている。(図表Ⅱ-122)

〈図表 Ⅱ-122〉死亡保険金の相続税非課税措置の認知



性別にみると、男性で「知らなかった」が、女性で「知っている」が高くなっている。

年齢別にみると、29歳以下から35～39歳、45～49歳で「知らなかった」が、55～59歳から75～79歳で「知っている」が、それぞれ高くなっている。(図表Ⅱ-123)

〈図表Ⅱ-123〉死亡保険金の相続税非課税措置の認知(性別、年齢別)

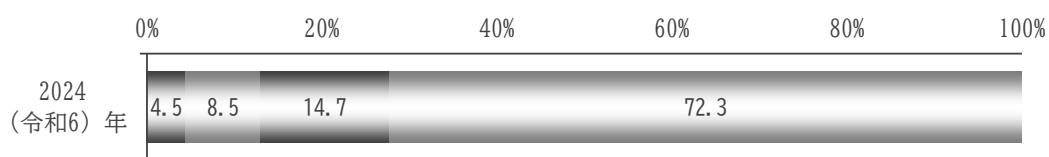
		(%)	
		知っている	知らなかった
全 体		24.2	75.8
性 別	男 性	22.2	77.8
	女 性	26.6	73.4
年 齢 別	29歳以下	11.2	88.8
	30～34歳	14.8	85.2
	35～39歳	13.3	86.7
	40～44歳	20.8	79.2
	45～49歳	12.7	87.3
	50～54歳	19.7	80.3
	55～59歳	32.0	68.0
	60～64歳	30.7	69.3
	65～69歳	38.3	61.7
	70～74歳	43.0	57.0
75～79歳	47.2	52.8	

(キ) 死亡保険金の相続税非課税措置が拡充された場合の対応

死亡保険金の相続税非課税措置が仮に拡充された場合、今後の生命保険への加入についてどのように考えているのかを尋ねた。

その結果、「将来、生命保険の保障内容を充実させる際の励みになると思う」は14.7%となっている。次いで「新たに生命保険に加入したり、現在加入している生命保険を見直し、より充実した保障内容にすることを検討しようと思う」は8.5%、「新たに生命保険に加入したり、現在加入している生命保険を見直し、より充実した保障内容にする」は4.5%となっている。また、「なんとも思わない」は72.3%となっている。(図表Ⅱ-124)

〈図表Ⅱ-124〉死亡保険金の相続税非課税措置が拡充された場合の対応



＝新たに生命保険に加入したり、現在加入している生命保険を見直し、より充実した保障内容にする

＝新たに生命保険に加入したり、現在加入している生命保険を見直し、より充実した保障内容にすることを検討しようと思う

＝将来、生命保険の保障内容を充実させる際の励みになると思う

＝なんとも思わない

性別にみると、女性で「将来、生命保険の保障内容を充実させる際の励みになると思う」が高くなっている。

年齢別にみると、29歳以下、35～39歳で「新たに生命保険に加入したり、現在加入している生命保険を見直し、より充実した保障内容にすることを検討しようと思う」が高く、29歳以下では「新たに生命保険に加入したり、現在加入している生命保険を見直し、より充実した保障内容にする」も高い。また、30～34歳では「将来、生命保険の保障内容を充実させる際の励みになると思う」が高くなっている。(図表Ⅱ-125)

〈図表Ⅱ-125〉死亡保険金の相続税非課税措置が拡充された場合の対応（性別、年齢別）

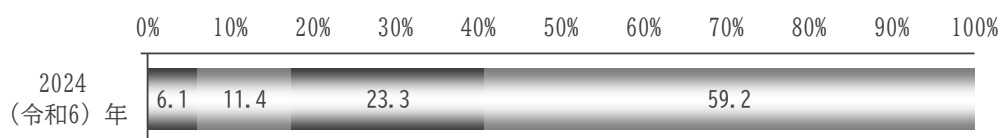
		(%)			
		新たに生命保険に加入したり、現在加入している生命保険を見直し、より充実した保障内容にする	新たに生命保険に加入したり、現在加入している生命保険を見直し、より充実した保障内容にすることを検討しようと思う	将来、生命保険の保障内容を充実させる際の励みになると思う	なんとも思わない
全体		4.5	8.5	14.7	72.3
性別	男性	5.1	9.2	13.1	72.5
	女性	3.6	7.6	16.8	72.0
年齢別	29歳以下	7.4	11.9	17.2	63.6
	30～34歳	5.6	11.3	20.4	62.7
	35～39歳	4.6	12.7	11.6	71.1
	40～44歳	3.3	8.3	10.0	78.3
	45～49歳	3.4	8.3	17.2	71.1
	50～54歳	3.5	4.6	14.5	77.5
	55～59歳	4.6	5.1	10.9	79.4
	60～64歳	1.0	3.6	13.5	81.8
	65～69歳	4.0	4.0	11.4	80.5
	70～74歳	2.7	9.0	13.3	75.0
75～79歳	4.9	9.0	18.1	68.1	

(ク) 死亡保険金の相続税非課税措置が縮小・廃止された場合の対応

死亡保険金の相続税非課税措置が仮に縮小・廃止された場合、現在加入している生命保険についてどのように考えているのかを尋ねた。

その結果、「現在加入している生命保険を続けていくべきか不安に思う」は23.3%となっている。次いで「現在加入している生命保険に関して解約あるいは減額を検討しようと思う」は11.4%、「現在加入している生命保険に関して解約あるいは減額をする」は6.1%となっている。また、「なんとも思わない」は59.2%となっている。(図表Ⅱ-126)

〈図表Ⅱ-126〉死亡保険金の相続税非課税措置が縮小・廃止された場合の対応
(生命保険の加入者ベース)



- 現在加入している生命保険に関して解約あるいは減額をする
- 現在加入している生命保険に関して解約あるいは減額を検討しようと思う
- 現在加入している生命保険を続けていくべきか不安に思う
- なんとも思わない

性別にみても、大きな差異はみられない。

年齢別にみると、29歳以下で「現在加入している生命保険に関して解約あるいは減額を検討しようと思う」が高く、40～44歳で「現在加入している生命保険に関して解約あるいは減額をする」が、45～49歳で「現在加入している生命保険を続けていくべきか不安に思う」が高くなっている。(図表Ⅱ-127)

〈図表Ⅱ-127〉死亡保険金の相続税非課税措置が縮小・廃止された場合の対応
(性別、年齢別) (生命保険の加入者ベース)

		(%)			
		現在加入している生命保険に関して解約あるいは減額をする	現在加入している生命保険に関して解約あるいは減額を検討しようと思う	現在加入している生命保険を続けていくべきか不安に思う	なんとも思わない
全体		6.1	11.4	23.3	59.2
性別	男性	6.3	13.1	21.2	59.4
	女性	5.8	9.5	25.7	59.0
年齢別	29歳以下	9.2	27.5	27.5	35.9
	30～34歳	9.8	19.6	21.6	49.0
	35～39歳	6.8	16.9	28.8	47.5
	40～44歳	14.3	9.5	23.8	52.4
	45～49歳	5.9	9.9	31.7	52.5
	50～54歳	7.3	4.9	20.7	67.1
	55～59歳	5.1	4.0	18.2	72.7
	60～64歳	6.4	5.5	17.3	70.9
	65～69歳	3.3	8.9	18.9	68.9
	70～74歳	3.3	8.5	22.9	65.4
75～79歳	2.4	10.6	25.9	61.2	

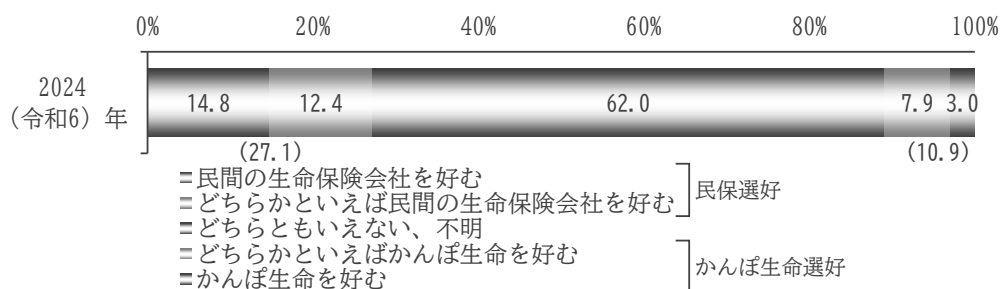
(12) 民保とかんぽ生命に対する加入意識

(ア) 民保とかんぽ生命に対する加入意向

今後、生命保険の加入を検討するとした場合、かんぽ生命を除く民間の生命保険会社とかんぽ生命のどちらが好ましいと考えているのかを尋ねた。

その結果、『民保選好』（「民間の生命保険会社を好む」と「どちらかといえば民間の生命保険会社を好む」の合計）が27.1%、『かんぽ生命選好』（「かんぽ生命を好む」と「どちらかといえばかんぽ生命を好む」の合計）が10.9%と、『民保選好』が多くなっている。(図表Ⅱ-128)

〈図表Ⅱ-128〉民保とかんぽ生命に対する加入意向



性別にみても、大きな差異はみられない。

年齢別にみると、30～34歳で『民保選好』が、70～74歳、75～79歳で『かんぽ生命選好』が高くなっている。(図表Ⅱ-129)

〈図表Ⅱ-129〉民保とかんぽ生命に対する加入意向(性別、年齢別)

		(%)						
		民間の生命保険会社を好む	どちらかといえば民間の生命保険会社を好む	民保選好	どちらともいえない、不明	かんぽ生命選好	どちらかといえばかんぽ生命を好む	かんぽ生命を好む
全体		14.8	12.4	27.1	62.0	10.9	7.9	3.0
性別	男性	14.3	13.7	28.0	61.7	10.4	7.3	3.0
	女性	15.4	10.7	26.1	62.3	11.6	8.6	3.0
年齢別	29歳以下	9.7	14.0	23.7	65.9	10.4	7.6	2.8
	30～34歳	21.1	13.4	34.5	55.6	9.9	7.7	2.1
	35～39歳	15.6	11.0	26.6	67.1	6.4	4.6	1.7
	40～44歳	16.7	13.3	30.0	64.2	5.8	4.2	1.7
	45～49歳	16.7	10.8	27.5	65.7	6.9	5.4	1.5
	50～54歳	17.3	7.5	24.9	64.2	11.0	9.2	1.7
	55～59歳	10.3	17.1	27.4	64.0	8.6	7.4	1.1
	60～64歳	18.8	12.0	30.7	59.4	9.9	6.3	3.6
	65～69歳	20.8	9.4	30.2	54.4	15.4	10.1	5.4
	70～74歳	14.5	11.7	26.2	58.2	15.6	10.9	4.7
75～79歳	11.1	13.9	25.0	54.9	20.1	13.2	6.9	

(イ) 民保とかんぽ生命に対する選好理由

『民保選好』、『かんぽ生命選好』と回答した者に、それぞれその理由を尋ねた。

その結果、『民保選好』層では、「価格が手頃だから」が35.8%と最も多く、次いで「商品・サービスが良いから」34.0%、「信頼できるから」30.7%の順となっている。

一方、『かんぽ生命選好』層では、「信頼できるから」が40.4%と最も多く、次いで「価格が手頃だから」34.2%、「店舗が近くにあり便利だから」23.8%の順となっている。(図表Ⅱ-130)

〈図表Ⅱ-130〉民保とかんぽ生命に対する選好理由(複数回答)

		(%)														
		商品やサービスが良いから	価格が手頃だから	信頼できるから	営業職員・窓口の対応が良いから	営業職員・窓口の親戚、知人がいるから	健全な経営をしているから	安心できるから	政府が間接的に株式保有しているから	規模が大きいから	できそうだと思うから	店舗が近くにあり、便利だから	広告をよく見かけるから	以前加入したことがあるから	運用成績が良いから	その他
民保選好		34.0	35.8	30.7	10.7	5.5	11.6	4.2	15.6	3.5	5.9	5.9	8.9	8.4	4.0	
かんぽ生命選好		12.5	34.2	40.4	12.1	5.4	11.7	11.3	16.3	13.8	23.8	3.3	12.5	3.3	0.8	

民保選好を性別にみても、大きな差異はみられない。

年齢別にみると、29歳以下で「価格が手頃だから」が高く、30～34歳で「営業職員・窓口に親戚、知人がいるから」が、65～69歳、70～74歳で「以前加入したことがあるから」が高くなっている。(図表Ⅱ-131)

〈図表Ⅱ-131〉民保とかんぽ生命に対する選好理由（民保選好）
（性別、年齢別）（複数回答）

		商品やサービスが良いから	価格が手頃だから	信頼できるから	営業職員・窓口の対応がよいから	営業職員・窓口の親戚、知人がいるから	健全な経営をしているから	いざという時に政府の関与が期待できそうだと思うから	規模が大きいから	店舗が近くにあり、便利だから	広告をよく見かけるから	以前加入したことがあるから	運用成績が良いから	政府が間接的に株式保有しているので安心してきそうだと思うから	その他
	全体	34.0	35.8	30.7	10.7	5.5	11.6	3.5	15.6	5.9	5.9	8.9	8.4	4.2	4.0
性別	男性	36.4	37.0	33.8	11.4	6.1	12.2	3.8	14.6	5.5	5.2	7.3	8.7	4.1	3.8
	女性	30.7	34.3	26.4	9.8	4.7	10.6	3.2	16.9	6.3	6.7	11.0	7.9	4.3	4.3
年齢別	29歳以下	37.5	45.5	36.6	11.6	8.0	11.6	6.3	15.2	5.4	8.9	2.7	9.8	3.6	0.9
	30～34歳	40.8	34.7	28.6	8.2	14.3	4.1	2.0	12.2	6.1	4.1	10.2	4.1	2.0	2.0
	35～39歳	32.6	43.5	34.8	10.9	4.3	8.7	6.5	15.2	6.5	6.5	0.0	10.9	4.3	4.3
	40～44歳	25.0	30.6	19.4	5.6	2.8	16.7	0.0	25.0	2.8	8.3	5.6	8.3	5.6	8.3
	45～49歳	37.5	46.4	32.1	5.4	3.6	10.7	3.6	10.7	1.8	1.8	5.4	14.3	1.8	0.0
	50～54歳	37.2	32.6	30.2	9.3	0.0	11.6	2.3	20.9	4.7	7.0	7.0	2.3	0.0	7.0
	55～59歳	29.2	39.6	22.9	2.1	4.2	4.2	4.2	10.4	2.1	2.1	6.3	8.3	8.3	4.2
	60～64歳	35.6	35.6	32.2	13.6	5.1	10.2	0.0	11.9	8.5	3.4	10.2	8.5	3.4	5.1
	65～69歳	31.1	26.7	28.9	17.8	4.4	22.2	6.7	13.3	13.3	6.7	20.0	8.9	4.4	0.0
	70～74歳	32.8	22.4	32.8	14.9	3.0	14.9	1.5	22.4	7.5	7.5	19.4	6.0	3.0	9.0
75～79歳	25.0	22.2	25.0	16.7	8.3	13.9	2.8	16.7	5.6	5.6	16.7	8.3	13.9	8.3	

かんぽ生命選好を性別にみると、男性で「商品やサービスが良いから」が、女性で「店舗が近くにあり便利だから」が、それぞれ高くなっている。

年齢別にみると、29歳以下で「営業職員・窓口の対応が良いから」「広告をよく見かけるから」が高く、40～44歳で「価格が手頃だから」、45～49歳で「商品やサービスが良いから」、70～74歳、75～79歳で「店舗が近くにあり便利だから」がそれぞれ高い。また、75～79歳では「信頼できるから」「いざという時に政府の関与が期待できそうだと思うから」「以前加入したことがあるから」も高くなっている。(図表Ⅱ-132)

〈図表Ⅱ-132〉民保とかんぽ生命に対する選好理由（かんぽ生命選好）
（性別、年齢別）（複数回答）

		商品やサービスが良いから	価格が手頃だから	信頼できるから	営業職員・窓口の対応がよいから	営業職員・窓口の対応がよいから	健全な経営をしているから	いざという時に政府の関与が期待できそうだと思うから	規模が大きいから	店舗が近くにあり、便利だから	広告をよく見かけるから	以前加入したことがあるから	運用成績が良いから	政府が間接的に株式保有しているので安心してきそうだと思うから	その他
全体		12.5	34.2	40.4	12.1	5.4	11.7	13.8	16.3	23.8	3.3	12.5	3.3	11.3	0.8
性別	男性	16.5	38.6	40.9	8.7	4.7	10.2	15.7	14.2	15.0	3.9	10.2	3.2	13.4	0.8
	女性	8.0	29.2	39.8	15.9	6.2	13.3	11.5	18.6	33.6	2.7	15.0	3.5	8.9	0.9
年齢別	29歳以下	14.3	24.5	34.7	22.4	8.2	6.1	10.2	16.3	6.1	10.2	4.1	2.0	10.2	0.0
	30～34歳	14.3	21.4	28.6	7.1	7.1	14.3	14.3	14.3	0.0	7.1	0.0	7.1	14.3	0.0
	35～39歳	27.3	45.5	54.5	9.1	9.1	9.1	27.3	18.2	0.0	0.0	9.1	9.1	9.1	0.0
	40～44歳	14.3	71.4	42.9	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	45～49歳	35.7	35.7	42.9	7.1	0.0	14.3	0.0	21.4	14.3	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0
	50～54歳	15.8	52.6	42.1	15.8	5.3	10.5	5.3	21.1	21.1	5.3	10.5	5.3	5.3	0.0
	55～59歳	0.0	6.7	20.0	6.7	6.7	6.7	0.0	0.0	20.0	6.7	13.3	6.7	26.7	6.7
	60～64歳	5.3	31.6	47.4	5.3	10.5	10.5	15.8	10.5	26.3	0.0	15.8	0.0	5.3	0.0
	65～69歳	17.4	43.5	43.5	8.7	4.3	17.4	8.7	17.4	26.1	0.0	13.0	4.3	21.7	0.0
	70～74歳	10.0	40.0	35.0	10.0	2.5	12.5	20.0	20.0	52.5	0.0	15.0	2.5	15.0	2.5
75～79歳	0.0	31.0	58.6	10.3	3.4	20.7	27.6	17.2	41.4	0.0	34.5	3.4	6.9	0.0	